

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800064		
法人名	社会福祉法人高佳会		
事業所名	馬瀬グループホームいきいき		
所在地	岐阜県下呂市馬瀬惣島1518番地		
自己評価作成日	令和4年8月26日	評価結果市町村受理日	令和4年11月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouCd=2192800064-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和4年9月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大自然に囲まれ毎日が新鮮で窓を開ければ透き通った空気、鳥の鳴き声やカエルの合唱を聞きながら豊かな時間を過ごしている。コロナ禍の中でもホーム内は楽しい会話や体操、掲示物の季節に応じた素敵な飾り物作り、廊下のモップかけやテーブル拭き、料理の盛り付けや味見、下ごしらえと一日があっという間に過ぎていく充実した生活を送っている。また、自家製野菜や近所、家族様から頂いた新鮮な野菜や地元のお米を毎日の食事で頂いている。そのおかげか利用者様はとてもお元気で過ごしておられます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は山と川に囲まれた少し高台の小学校跡地にあり、街道を見下ろせば、車や人の行き来、広場で行われる地域の活動を見ることができる。同法人の施設が廊下続きにあり、運営推進会議や各種委員会・研修等が効果的に行われている。日々の生活支援から看取りケアまで、利用者と家族の意向を尊重した質の高いサービスを提供している。職員の支援協力も可能で、利用者は安心して顔なじみの特養の人たちとも日常的に交流することができる。ICTの導入により、介護サービスの充実や職員の働きやすい職場環境整備に取り組んでおり、定着率も高い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員は法人理念を理解し利用者が満足と笑顔絶やさない生活が送れるよう努めている。	管理者は、法人の理念と職員の心得が書かれたカード「PASSO」を全員に配布している。朝礼で確認し合い、理念を意識しながら共有し、職員は、常に「その人」に寄り添うケアを心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	三年目のコロナ禍で地域行事が自粛されているが、地域活動がある時は、積極的に参加している、美化清掃活動の参加はありました。	未だコロナ禍にあり、地域の行事などは中止が多い。地域とのつながりが途絶えないよう、美化清掃活動などは、可能な限り職員が参加している。近隣住民から畑で収穫した野菜が届き、利用者も食卓で季節を感じる事が出来ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域や、近隣、居宅事業所からの入居相談等、電話で相談に乗り支援の方法等を伝え力になることができた。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、会議の開催はコロナ拡大が減少したとき、一回のみとなったが、毎月の手紙の発送はあった。	今年度は5月に開催後、地域に感染拡大が見られたため第2回からは中止となっている。会員や家族へは、事業所の運営状況や利用者の様子等を毎月の事業所だよりで伝え、理解につなげている。意見箱を設置しているが意見などは寄せられていない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の為、地域の会議は中止となったが各事業者や、病院からは情報交換や相談は電話にて交わした。	行政との地域会議も、現在、休止中である。市の担当者とは電話やFAXを利用し、入居希望や待機者数などの情報交換、相談・助言を得るなど協力関係作りに努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設けている。勉強会を開き常に身体拘束のない支援に取り組んでいる。	3カ月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し、職員勉強会も年2回実施している。勤務日には、毎日1人1枚デイリーシート、ヒヤリハット・事故報告を記入して提出し、集計も行うなど、客観的な分析をしながら、身体拘束ゼロの支援を継続している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会の活動があり、勉強会を行い、虐待防止には全職員が常に意識している。			

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設利用者の中でも独居の方が増えている現状があり、個々に応じて必要とされる場合は関係者と連絡、説明が行えるようにしている。また、入居時にも説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は時間をかけ自宅へ外出き行っている。利用者、家族の意向をお伺いし、説明は丁寧に行い理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の利用者の様子は、毎月のお手紙に写真をのせお伝えしている。コロナ禍で面会が中止の時には電話でも連絡させていただいている。	コロナ禍で、2か月間面会を休止している間は、家族への電話連絡の際に意見や要望を聞いたり、利用者の様子を伝えている。写真を添付した手紙も郵送している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議では全員が発言し日頃の業務の見直しや些細な事でも意見が出せる環境にあり、反映させている。	事業所のユニット会議は毎月行い、管理者は職員との信頼関係を築きながら、意見や提案を検討し、運営に反映させている。リーダー会議も半年に1回程度開催し、特養とグループホーム管理者、リーダー、施設長が参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者には常に情報を提供し、自己評価や面談を行い職員の向上心を高め、やりがいある職場で勤務出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1月から毎日の業務の見直しとしてデイリーシートの導入をしている、気づいたことや意見も記入でき職員の日々の様子が把握できる。とても良いシートである		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ拡大のため同業者との交流はほぼ中止となったが、施設内での委員会の勉強会は行われた。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初対面時には、本人の話を細かく聞き、また心身の状況を見て確かめ不安や思いをくみ取り、大丈夫という受け止めの言葉をかけ安心確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居説明には時間をかけ、家族にとっても苦痛なく納得がいくまで要望や説明に勤めている。また後日でも電話でも対応させて頂けるよう説明し、理解に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をゆっくり全て聞き入れ、最も最初に必要とするサービスの導入を見極め、施設での最大限のサービスの提供を提案し両者納得の上、利用できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを見つけ出し自分も必要とされる、されている立場なんだと思えるよう明日への活力に繋げれる生活を両者が送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも連絡の取れる携帯電話の使用や、家族の対応をお願いしている。普段の会話にも家族や大切な人への話題を多くできるように、忘れないように職員は注意を払いながら関係を構築させている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染が急激に増え面会の中止、特別な理由がない限り外出も禁止となっているが併設している特養へは散歩がてら足を運び利用者同士、馴染みの関係は継続されている。	感染予防対策を行いながら、家族との面会を継続してきたが、地域の感染拡大がみられたため、2カ月間面会中止とした。現在は再開している。廊下続きにある特養には、地元の知り合いであった入所者も多く、互いに行き来し交流を維持することが出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ力量の利用者同士が小さなグループとなり関り支えあい、孤立のない生活が送れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族様に電話にて近状報告を行い施設での生活を記録したアルバムを贈り家族に安心感をもって頂ける様に努め、繋がりをいつまでも保てるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で本人が何を感じてやりたいのかを把握し、出来ることは行い困難な場合は手助けし本人本位を大切にしている。	職員は、日々の関わりの中で、言語によるコミュニケーションだけでなく、表情やしぐさ、行動などから本人の思いや意向を把握するよう心がけ、利用者本位の支援の提供に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人・家族・担当支援専門員から情報を集めるほか、入所後も施設内の生活から安心できるケア方法を見つけ安心に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者は各々が暮らしが違うことを理解し、暮らしやすさに寄り添いながら職員間では共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、利用者の情報を元に家族へは現状報告を行い意向の確認をし介護計画を立てている。	利用者情報は、iPadを活用して記録している。月2～3回介護支援専門員が記録を確認し、職員への聞き取り、本人・家族の意向をもとに個別援助計画を策定している。管理者が記録の検証を行いながら、より現状に即した計画になるよう記録内容の向上に努めている。	記録のIT化を進める中で、利用者の言動や職員の気づき等が介護記録に記述され、個別ケア計画に反映されるよう管理者は日々努力している。さらに工夫を重ね、職員が把握する情報の有効活用方法を検討し、記録を基にした介護計画作りに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録は、iPadの導入により、明確に情報共有することができる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況を見極め柔軟な対応に最大限の提供を行っている。併設型施設の為機械浴や栄養補助食品の提供、補助具の提供も行いサービスの多機能化に取り組んでいる。		

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナ禍の為困難だが、地域の傾聴ボランティア、野球チームの、近隣の力を借りて利用者の生活に取り込み安全で豊に、楽しみの一つとしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅診療所から往診体制をとっている。24時間往診体制が整い、また相談等も電話にて受け入れて頂ける体制を取っている。併設されている歯科へは診療に通院できる状態である。	契約時にかかりつけ医の選択について説明している。ほとんどの利用者が協力医に変更し、24時間体制で在宅診療所の往診を受けている。併設の歯科へも受診ができ、他科へは家族の協力を得ながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の看護師が定期的に勤務に入り健康状態の把握に努め、急変時の対応や主治医への報告や家族への説明、アドバイスにも力を入れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は情報提供を敏速に行い、情報の共有を行っている。病院関係者とは訪問し関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重度化したときの意向の確認を行い指針の説明、同意書を交わしている。職員の研修として看護師による勉強会(研修)を定期的に行い不安や、実践に役立つ事ができた。	契約時に終末期の対応について説明し、意向を確認している。ほとんどの家族が看取りを希望している。職員は、研修や実際のケア見学を行うことで、利用者が、その人らしく穏やかな最期を迎えられるよう心がけ、チームで一丸となって温かい看取り支援を行えるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全員参加の救急救命訓練を実施し、職員同士が確認・共有し急変時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設において避難訓練の実施、方法を学んでいる。また地域の消防団、近隣住民とは避難場所の提供と、応援の協力体制は築いている。業務継続計画、BCPも完成している。	特養と合同で避難訓練を行っている。ローリングストック法を取り入れた備蓄品管理をしている。裏山の土砂災害防止整備は完了しているが、馬瀬川の2本の橋が流された場合は孤立する事が考えられる。備蓄品の完備、自家発電機の設置、地域消防団や近隣住民との協力体制作りを整えている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念にも掲げてあるように利用者の人生史を大切にし、言葉がけの中に取り入れながら密な関係を作り丁寧な対応に心がけている。	個々の状態やニーズに応じ、プライバシー保護と個人の尊厳を守る支援に努めている。廊下に格子戸があり、その奥に居室の扉がある。廊下からは部屋の中が見えないようになっており、プライベート空間への配慮がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	迷いなく自己決定が行える支援を行っている。職員は明確で理解しやすい言葉掛けに注意し働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日でも本人のペースを大切に必ず希望に沿った支援を行い、職員の都合の押しつけをしないケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のおしゃれにまかせ、身だしなみには声かけ程度とし、迷いの少ない身だしなみを心がけ支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー表に、全員のリクエストメニューを取り入れ楽しみを増やし夏の暑い日は、ノンアルコールで楽しんだ、味見、盛り付け、食器拭きなど力を発揮して頂いた。	職員は、食材の買い出しから調理・片付けまでを行っている。利用者のリクエストメニューに応えたり、近隣住民や家族から差し入れられた旬の野菜や肉なども活用している。利用者は、味見や盛り付け、片付けなど、個々に出来る事を楽しみながら関わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の健康状態を把握し、水分制限や栄養バランスのとれた食事の提供も行っている。また自分で水筒を持参しミネラルサーバーで水素水を入れて自室でも水分を摂取できる状態である。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは欠かさず、施設内の歯科衛生士による口腔ケアや状態把握に努め健康維持に繋げている。		

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を確認し、早めの対応を心がけ失敗の少ない支援を行っている。また夜間歩行の危険度が高い利用者には居室で、ポータブルトイレを使用している。	利用者一人ひとりの排泄状況を確認し、声掛けと排泄用品の選択や組み合わせにより、排泄の自立支援に取り組んでいる。また、早目の支援をすることで、失敗を減らし、利用者の自信に繋げている。夜間は転倒の危険度が高い利用者は、ポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食物繊維を多く摂取し毎日の日課で運動や体操・散歩を取り入れ、便秘の予防と対応に取り組んでいる。薬をなるべく使用せず自然排便を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に応じた入浴時間を提供し、羞恥心に配慮し異性入浴介護を拒否される利用者には同性介護を行っている。また汗をかいたときには足浴やホットタオルの提供を行っている。	週2回、信楽焼の浴槽で個浴を楽しめるよう支援している。シフト状況によっては、希望の時間に入浴できるようにしている。個浴での入浴が難しくなった場合には、特養の機械浴で支援し、利用者の状態に合わせて、清潔保持できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し自分のペースで休んで頂くよう声掛けや居室内ではテレビを観たり日記を書いたり、休息できる環境がある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況を確認し、忘れ、誤薬のないように声を出して確認し利用者に口腔内投与や手渡し後必ず確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事を発揮出来るよう日課表に記載し全員が支援出来る状況にある、やる気をださせる声かけを行い楽しみややりがい繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の日課で戸外に出て気分転換に努め体操や歌を歌ったり楽しみを見つけている。プランターに植えた野菜の収穫の楽しみもある。家族との交流や地域での交流はコロナ拡大のためされていない。	現在、家族や地域の人との外出を中止しているが、毎日、玄関先のベンチで街道や広場を眺めたり、庭作業の時間を作って、楽しめるよう工夫している。屋外に出れば、鳥の鳴き声や川の流れる音を聞くことができ、気分転換につなげている。	

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了承を得て本人の不安を取り除き、多少の金銭を持参している利用者は数名みえる。時々、自動販売機での買い物を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持される利用者は数名みえ家族や知人に常時連絡の取れる環境にあり繋がりを大切にされる、また施設の電話を使い家族等に連絡される利用者もあり、繋がりを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	併設する特養へは常時行き来でき、どこでも安らげる空間の提供場所がある。季節の物を自然から多く取り入れ、快適で日々変化のある充実感ある場所となるよう工夫をしている。又面談室でもいつでもお茶やコーヒー等を飲み、くつろげる場所があり利用している。	リビングや廊下には大きな窓があり、明るい外光を浴びながら、快適に過ごせる空間となっている。広い中庭には池があり、季節を味わえる花木がある。回廊式の広い廊下は、特養にも続いており、利用者が自由に行き来でき、開放的な室内空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設館内はどこでも出掛けることができ、数人で出かけられる事が多い。また一人で過ごしたい利用者にはそと職員が寄り添い寂しさのない支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら慣れ浸しんだ家具や洋服を取り入れ迷いなく安心し、また懐かしく思い出せる居室作りを行っている、利用者同士がお互いの部屋に入り雑談やテレビを一緒に観て過ごせるそんな仲間作りも出来ている。	利用者は好みの家具や私物を自由に持ち込むことが出来る。ベッドと収納ケースの他は、家族や職員と相談している。家族の写真を飾ったり、仏壇を置く人もあり、それぞれが落ちつける居室作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の場所がわかるよう、利用者が手書きされた表札や目印がある。利用者同士で教え合いながら理解し自立した生活が送られている。		